



IRPA Bulletin

For RP professionals, by RP Professionals



JUNE 2024

ISSUE # 42



正式発表です！ Christopher Clement 氏は、2024 年から 2028 年までの IRPA 会長の役割を引き受け、Bernard Le Guen 氏から Polvani Bell（訳者註：伝統的に IRPA 会合の開会と閉会の際に使用されるベル）を受け取ります

目次：

	会長のブログ	- 2
クロアチア放射線防護学会 (CRPA) 第 4 回若手専門家会合		- 4
AOCRP-6 での IRPA 若手世代ネットワーク(YGN)セッション		- 5
IRPA 理事選挙候補者		- 6
2024 エジプト放射線防護ワークショップ		- 7

翻訳：桧垣 正吾、編集：藤通 有希、監修：藤田 博喜

この"IRPA 会報"の日本語訳は、IRPA の公式的な翻訳ではありません。そのため、IRPA はその正確性を保証するものではなく、またその解釈や使用がもたらすいかなる結果についても、一切責任を負いません。

Translated by Shogo Higaki, edited by Yuki Fujimichi and reviewed by Hiroki Fujita.

This Japanese translation of "IRPA Bulletin" is not an official IRPA translation; hence, IRPA does not guarantee its accuracy and accepts no responsibility for any consequences of its interpretation or use.

会長のブログ

DR. BERNARD LE GUEN

時間はあっという間に過ぎ去ります！3年半が経ちましたが、とてもワクワクする日々でした。私はいつも、IRPAファミリーと、すべての放射線防護専門家の間で育む素晴らしいネットワークについて話しています。

この3年半、当協会の会長職を務められたことを光栄に思います。COVID-19のパンデミックに関連する制限がようやく解除された後、私はIRPAを医療界にもっと開放し、医療における放射線安全文化に関するタスクグループを再開し、地域会議や新しいウェビナーシリーズを通じて、メンバーの皆さんとより直接的なつながりを築くという目標を追求することができました。私は、各タスクグループの委員長がそれぞれの仕事と成功を紹介できる、このウェビナーの形式に非常に満足しました。



国際放射線防護委員会（ICRP）が放射線防護体系の次の進化を検討している今、IRPAにとって、放射線防護専門家の声を届けることができる特定のタスクグループを設置することは非常に重要でした。このプロセスはまだ初期段階であるため、この特定のタスクグループの作業とICRPとの継続的なパートナーシップは、今後4年間も最優先事項であり続けるでしょう。

最近の最もエキサイティングなイベントは、おそらく成功裏に終えたIRPA16大会でしょう。私たちのIRPA会議は、今や疑いなく放射線防護の世界的な主要会議となっています。

今年の大会での議論は、IRPAのプログラムの主要テーマによって強化されました。5日間にわたるプログラムでは、最新の科学的成果、電離・非電離放射線防護体系、コミュニケーション戦略について議論する機会が設けられました。また、ステークホルダーの参加、教育と訓練、線量算定と測定、実務、医療、原子力エネルギーおよび燃料サイクル産業における放射線防護に関する素晴らしい議論も行われました。



IRPA16(オランダ)からIRPA17(バレンシア)へのIRPA旗の移動

会長のブログ

DR. BERNARD LE GUEN



IRPA16における放射線安全文化に関するパネルセッション。左から右へ: Bernard Le Guen 氏(IRPA)、Claire-Louise Chapple 氏(IRPA)、Debby Gilley 氏(IAEA、HPS)、John Damilakis 氏(IOMP)、María del Rosario Pérez 氏(WHO)、Alfredo de Los Reyes 氏(FORO)

IRPA16は、世界中から集まり、専門的で科学的なセッションを超えた交流と陽気な瞬間を共有する機会でもありました。私は、各IRPA会議は、すべての大陸のさまざまな国の放射線防護専門家間の協力とコミュニケーションを強化するために不可欠であると考えています。

IRPA会長としての最後のメッセージとなりますが、IRPAの旗をChristopher Clement新会長に正式に引き継ぐことができ、大変嬉しく思っております。Chrisの成功を祈るとともに、IRPAが良い仕事をすることを確信しています。Chrisはいつでも私の全面的なサポートを頼りにできます。

私は来期からIRPA業務執行理事の役割を引き受けているので、遠くまでには行きません。私は、あなた方と一緒に働き、この新しいポジションでIRPAに奉仕し続けることを楽しみにしています。IRPA万歳！



Bernard Le Guen 氏と IRPA16 の基調講演者の NASA の宇宙飛行士 Norman Thagard 氏



シーベルト賞受賞者 María del Rosario Pérez 博士



組織委員会:

Ante Matanić, Ena Pezić, Galla Uroić, Helena Bach-Rojecky, Ivana Coha

2024年3月1日(金)、ザグレブのRuđer Bošković研究所で、クロアチア放射線防護学会が主催する第4回若手専門家の会合が催されました。このイベントには過去最多の57人の参加者が集まり、43人が会場参加し、14人がオンラインで参加しました。集会は、CRPAの若手代表であるAnte Matanić氏による開会宣言と挨拶で始まり、プレゼンテーションのスケジュールも紹介されました。18のプレゼンテーションが3部に分かれて行われました。

第1部では、放射線治療と放射線診断の分野の専門家が、手順の最適化と彼らの仕事への新技術の適用に関連するさまざまなトピックについて話し合いました。放射線治療と放射線診断のプロセスにおける継続的な改善の重要性が強調されました。

第2部では、「放射線と環境」をテーマに、環境中の放射線量をモニタリングし、管理することの重要性や、放射線が動植物に及ぼす影響について語りました。また、農業における放射性物質の環境への影響や放射線防護の方法についての研究も紹介されました。

第3部では、放射線科学の教育とともに、電離放射線の分野での作業のさまざまな側面を網羅していました。クルシュコ原子力発電所における電離放射線に関する研究と、二次標準線量測定研究所(SSDL)の研究プロジェクトが発表されました。このパートでは、電離放射線と放射性廃棄物管理の分野における幅広いトピックを取り上げました。

会合の最後に、CRPAのIvana Coha会長が学会の活動について発表し、若手代表のAnte Matanić氏がIRPA若手世代ネットワーク(YGN)の活動を紹介しました。

参加者は、プレゼンテーションの構成と質に満足していると述べ、放射線防護の分野における知識と専門性を向上させるためのこのようなイベントの重要性を強調しました。この会合は、さまざまな分野の若い専門家の中で経験を交換し、新たな人脈を築く絶好の機会となりました。私たちは、この伝統を継続し、将来新しい会合を開催することを十分に期待しています。



AOCRP-6でのIRPA若手世代ネットワーク (YGN)セッション

河野 恭彦 (日本保健物理学会)

Rui Qiu (中国放射線防護学会)

Christy Mae T. Betos (フィリピン放射線防護学会)

Riya Dey (インド放射線防護学会)

Yeon Soo Yeom (韓国放射線防護学会)



IRPA 若手世代ネットワーク(IRPA-YGN)セッションは、インドのムンバイで開催された第6回アジア・オセアニア放射線防護会議(AOCRP-6)の期間中、2023年2月11日(土)9時15分から11時00分(IST)までハイブリッド開催されました。アジア各地から69名の若手メンバーが参加しました。その内訳は、日本から7名、中国から19名、韓国から18名、インドから13名、フィリピンから12名でした。このセッションは、関連学会の代表者が共同議長を務めました。

IRPA 理事会の IRPA-YGN リエゾン担当であり、当時日本保健物理学会の会長でもあった吉田浩子博士の開会の挨拶の後、セッションが始まりました。まず、2023年2月より IRPA-YGN の議長を務めている Sylvain Andresz 博士(CEPN)から、IRPA-YGN の最近の活動について紹介いただきました。その後、各 AS の代表者による活動報告が行われ、今後の放射線防護分野の発展に向けて IRPA-YGN をどのように活用していくかについて、参加者全員で放射線防護の未来について議論するパネルディスカッションが行われました。

このセッションを通じて、アジアの若い世代との関係がさらに強化されていることを実感しました。また、IRPA-YGN は、研究やその他の分野で若い専門家が協力して働く動機付けになると信じています。私たちは、この関係がアジアを超えて拡大し、すべての IRPA 関連学会を含めたいと考えています。2023年11月に東京 ICRP2023 で開催された YGN セッションは、この目標に向けた次のステップでした。

最後に、本セッションにご参加・ご協力いただいた皆様、特に本セッションの主催者であるインド放射線防護学会の皆様にご心より感謝申し上げます。



IRPA 理事選挙候補者

4年ごとに、各IRPA会議の総会で、新しいIRPA理事会の選挙が行われます。理事会のメンバーは合計6人です。各委員は2期(8年)で選出され、各総会で3人の新会員が選出されます。候補者は、それぞれの関連学会によって推薦され、資格証明書、志望動機書、その他関連書類を提出しなければなりません。

今年、理事会メンバーの選挙に5人の候補者が名乗りを上げました。推薦されるだけでも大変な労力であり、ましてや8年間理事を務めるとなれば、その労力は並大抵のものではありません。そのため、総会の結果にかかわらず、IRPAは候補者全員のIRPAの一員となる意思を認め、感謝したいと思います。

名前	国名	ノミネート学会	地域
Alexander Brandl	オーストリア	オーストリア放射線防護学会および ドイツ-スイス放射線防護学会	ヨーロッパ
佐々木道也	日本	日本保健物理学会	アジア・オセアニア
Hee-Seock Lee	韓国	韓国放射線防護学会	アジア・オセアニア
Hielke Freerk Boersma	オランダ	オランダ放射線防護学会	ヨーロッパ
Kevin Nelson	米国	米国保健物理学会	北米



Brandl



佐々木



Lee



Boersma



Nelson



2024 エジプト放射線防護ワークショップ

MOHAMED GOMAA

2024年4月16日から17日にかけて、エジプトの原子力・放射線安全要件ワークショップが開催され、医療・産業用途の原子力・放射線施設ライセンスに焦点を当てました。このワークショップは、エジプト原子力庁(EAEA)がカイロのナスル市で主催し、エジプトの大学の大学院生、EAEA 研究センターのスタッフ、放射線防護官や産業施設で働くユーザーなど、30名が参加しました。

EAEA 会長の Amr El-El Hag Aly 教授の承認と EAEA 副会長の Haydat Ahmed Kamal 教授の支援のもと、ワークショップの開会セッションは Mohamed Gomaa 教授が座長を務め、Safwat Salama 准教授が共同座長を務めました。



Mohamed Gomaa 教授と Safwat Salama 准教授

開会の挨拶で、Gomaa 教授は「REQUIREMENTS」という用語の重要性について言及しました。この用語は、IAEA (における一般安全要求事項) と ENRRA (における産業および医療施設の安全に関する要求事項) の両方で言及されています。さらに、彼は、若手職員が放射線防護官として働くための訓練と教育要件の重要性を強調しました。



エジプト放射線防護ワークショップ

MOHAMED GOMAA

初日のワークショッププログラムでは、以下のトピックを取り上げました。

- エジプト初の原子力発電所(DABAA)ユニットとその安全性に関する最新情報
- IAEA の GSR(一般安全要求事項)シリーズ。
- IAEA GSR パート1および2の詳細な推奨事項。パート3は、計画、緊急、および現存被ばく状況についてもレビューされました。
- IAEA GSR のその他の部分(勧告を含む)
- エジプト原子力放射線規制庁(ENRRA)の現在の活動(その歴史、雑誌、講演、出版など)。
- 初日はラウンドテーブルディスカッションで締めくくられました。



Yeha Abass 教授と Gomaa 教授

2日目のワークショッププログラムは以下の通りでした。

- ENRRA の最新の人員と施設の要件に関する要約ノート
- Ehab Atalla 教授による「医療施設の要件」と題した講演。
- Safwat Salama 教授による「Industrial Facilities Requirements」と題した講演会。続いて、「施設検査(事業者&規制当局)」の概要が説明されました。
- 最後のラウンドテーブルディスカッションは、Yehia Abbas 教授が議長を務めました。

ワークショップの推奨事項が Mohamed Gomaa 教授によって報告され、新人の放射線防護士資格取得を奨励することを目的としたものでした。

ワークショップの閉会時には、参加者に参加証明書が配布されました。EAEA メディアコンサルタントの Sherif EL-Gohary 教授は、ワークショップに関する詳細なメモを掲載するよう、地元の新聞社に積極的に働きかけました。



ニュース記事募集



共有したいニュースはありますか？ cop@irpa.net に送っていただければ、IRPA News と IRPA Bulletin で共有します。Bulletin の記事は通常、200～300 語と画像です。

私たちは常に、ソサエティスポットライトのために関連学会からの最新情報を探しています。あなたの学会が何をしてきたのか教えてください。会議、大規模会議、一般的なイベント、または良いニュースはいつでも大歓迎です！

IRPA 出版委員会：

IRPA コミュニケーションオフィサー：Dave Niven

会報編集部：Dave Niven

関連学会リエゾン：Michèle Légaré

ウェブサイト管理者：Dave Niven & Chris Malcolmson

ソーシャルメディアマネージャー：Sven Nagels & Chris Malcolmson

メディアレビュアー：Sven Nagels, Young-Khi Lim & 藤田 博喜

プロシーディングスアドバイザー：荻野 晴之

朗報です！ PayPal を通じて IRPA モントリオール基金に直接寄付できるようになりました！
寄付リンクについては、[IRPA ウェブサイトのモントリオール基金ページ](#)をご覧ください。

